

「服育」国際フォーラム



チクマと甲南大学が共催

株式会社チクマ（大阪市・竹馬隼一郎社長）と
甲南大学環境総合研究所（所長・谷口文章教授）
はこのほど、「服育」国際フォーラム“文化をつ
なぐ服・こころを育む衣”を開催、国内外の有識者
を招き衣服を通じて環境問題を考えるシンポジウムを行った。

う“制服の着こなし方講座”を18年前の1994年（平成6）から続けています。

開催の冒頭に竹馬社長があいさつし、「「服装」を考えるきっかけになつたのは制服を“着崩す”ことの横行です。彼らにとってはファッショングもしれないがこんなことが続けば学生服のマーケットがつぶれてしまう。そこで我々は学生服の着こなし方のプレゼント一

午後からはチクマの藤田隆司氏から「環境教育における“服育”」、衣服のもつ力」と題した講演が行なわれた他、コンサートやファッショニヨーが開かれ、なごやかな雰囲気の中、環境にや

した。甲南大学には学術的に取り組んでもらって教育活動に生かしていくべきだ。チクマの商品現場を実行をし、啓発をする。その結果を大学にフィードバックする。こういったサイクルを今後も続けていければと期待しています」と語り、今後も産学連携事業への取り組みに強い意欲を見せた。

シヨンを行うようになり
ました。好評で年間20
校近い学校から要請を
いただいています。そう
なると我々の活動も社会
的に影響力を持つことに
なってまいりました。そ
のようなところで環境教
育がご専門の谷口教授と

さしい衣服の紹介が行なわれた。最後に「災害から学ぶ生活の知恵」かけがえのない命をめぐって」と題してパネルディスカッションを開催。東日本大震災でボランティアを行な

つては、NPO法人代表者や阪神淡路大震災当時の行政担当者、タイの津水を経験した大学教授などが参加し、災害時における衣服の役割について熱心な討論が交わされた。

「服育」国際フォーラム

文化をつなぐ服 こころを育む衣

竹馬隼一郎・
チクマ社長挨拶



ユニークオーディオ
環境保護に貢献

谷口教授とお話こい みて共鳴した考え方があり 「地震被害を『き つめると』しつけ させ』」といふ主張で す。おはようござ ります。あらうか、 ありますよ。なるべ く、あさりをする。使った ものは元の場所に片づけ る。ビニール・スタイル の貯食は必要だだけ です。これがそのまま地盤 を保つマナーにな らうとしている。繩維業界で めぐらしくと題したバ ーカーもまとまる商品 を販売して消費者に やさと着いただく。 そして着古した服は捨て ない再資源化してこ なさい。吉田謙次郎 氏は倒壊した高層建 築物の瓦礫田に向ひ ます。大手ビル理事事務 所チャラード・ナンバー、 は地域環境を優先する プログラミングリチャバ ー達成なら構想があ

災害から学ぶ
生活の知恵

災害から学ぶ 生活の知恵

た。高速道路の地下化も、検討段階まで行ったが、早期復旧を望む声が高まり、元の形で再整備されるところだ。ところが、地域環境の保全と復興事業の実行に古着の配給を行なうボランティア活動の現状と課題を説明、「古着は廻まるが、被災者は廻らぬ」との東北に合いでない、東北は寒い、という思いの「身體の丈にあつて、防寒着はかみがあつて、防寒着はかめあつて、届き夏物が集まらぬ道」、「さうして、その冬に、としての役割を終えた古着は一軒一軒たたき廢棄物、谷口教授は開会のになり行政は待て余すばなしで「共通して

た。高速道路の地下化も検討段階まで行ったが、早期復旧を望む声が高まり元の形で再整備されるところになった。と語り、地域の環境の保全と復興事業の実現を図る立場で「非常時と衣服」について説明した。

吉田氏は東日本大震災現場に古物の配給活動を行なうボランティア組織の代表として現状と課題を説明。「古者は燃え上がる被災者の、火、自然災害にござる二ニ式に合ひてない。当時は寝る、いふ事いふ。身の丈にあつて、防寒着はかみがあつて、防寒着はかみになり行政は持て余さず、かりの存在にならぬ」と述べ、「さうしての割削を終えた古形着は一軒一軒の魔廢物になり行政は持て余さず、かりの存在にならぬ」と述べ、「と腰元に活用する仕組み」一手の必要性を強調した。

また、「途中から古着を無料で配給する」と述べ、「今までにいる誰ね」「無券」のままでやかまのが当たり前になると、「それ以前に腰元をして、それを賣れど、腰元にきてる」と訴えた。

ナシム氏はタイの状況について、「洪水被害などで生き方をすれば環境汚染など、心の支障を抱く恐れを抱いてる」と述べ、「私は仕組みづくりで、タイ国民はいろいろな状況にならざるを得ない」と述べ、「私たちは考えるが、そのままでやかまがいる」と述べ、「今までにない機会としろ、今までにない機会をして楽しんでいるといふ」もある」と述べた。

チクマと甲南大学環境総合研究所共催

大学環境総合研究所(所長 レヤフ・ツィラニン)と、
「谷口文彦教授」(このはの 田川かずひやかな)が
「文化のつなぐ風」(このぶみのつなぐかぜ)の題で、
「文化のつなぐ風」(このぶみのつなぐかぜ)の題で、
その紹介が行われた。
を育む事」を開催、国内外
の有識者を通じて環境問題
を考究するシンポジウムを行
った。
トーナメントの越谷商社
である同社は衣服を通して
「身も心も豊かな人生をな
れ」と、健やかなからだ、災害当時の行政担当者
を育む」と自ら目指し「服
の洪水を経験した大学生
」を提唱。独自の取り組みなどが参加。それぞれ
として社会貢献を受け、
同社の上社員が提出して行
う。制服の着こなし方講
座、を18年前の1994年



高阪 薫・甲南大学
学長挨拶

服装を通じ民族の 環境を読み取る